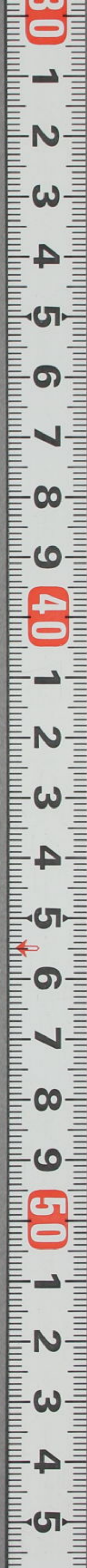




又 6
9668
3



若州良民傳卷之三目錄

小堀村家四郎 破八

道口村満吉

高濱村九右衛門妻ま川

熊川村八右衛門

生野屋勘吉清丈婦

高濱産右衛門女その

仲屋源七

小間村屋若吉

常使君と清母

竹波村新五郎

五十石村忠太郎 助と源 四郎と清

源治君と米

敦賀港

若州良民傳卷之三

小堀村宗四郎 破八

大飯郡小堀村ふたれ米つと小農父ありと云ふは或々

方二人の女は礼一人の男兒を懐ふと云ふは米つが家より

米は西國三十三の親者へ米訪しゆりものなり目く

は是とも云へど米はくは今宵一宿をぬる一ははむ

なるんと清ふをた米つ阿られみく米をゆきてわ

しむと夜二人の女は旅の憂き旅かとお清を切清ふ

云ふは米等諸國をぬるんと云ふは人ぬるぐの足弱





とさひくをふ^ふ恐^{おそ}びず^ず然^{しか}るよむそふ思^{おも}へらく自^{みづか}ら父母れ

篠下小河りくハ破ハ多ク其家小ゆ〜とより隣邑の
 大農はまゝすり事 救年能つゝめ能儉り〜てを給ふ
 親ひとくく父母の家小納むあふた束のぐん益うく家
 是清く人といひ〜ふ身程なく父病は羅りて亡ひぬ是よ
 兄才益清り家督承ふさむる村の長具ふち状を郡官
 へ告ぐ郡官洋ふ 君聴よきせし〜を明和八年卯五月
 十二日宗室即小本敷石をゆひしと宅地の税を免されそ
 へ〜きゆいを賞〜給ひ父がふ〜志はほせ〜と家と終
 一兄弟の才破ハを奉て歩卒とふさ〜め定給とふいをも

亦孝友を何〜されぬ

道の村はる

紙あ敦か〜道に村の民たき衆といへる者 年六十 家内五人
 何り忠き諸妻 年六十 宗領はる 二十 二男乙を 廿カ 女とめ
 十七八 かり宗依はる生質洋候ふて父母は孝行を尽〜
 才妹はあかりされば〜を貢〜民がりといへども家内
 常は腰す〜くお和がりいとか〜ハはる乙老日毎は敦
 かゝの町へ出山中新及所といへるお〜あ和を有い〜賃沙
 と〜り〜生斗〜ははるは〜力〜ふ健がりゆ急ふ〜

と負いとも苦まず大なる少一の田圃も持たれども
 年老に於ては壯氣うていふかきと老一が齡頗る病
 身とあるれれば勸もあさずあよとて老を難かどと地
 と朝夕のすけと人となり氣短とて也急かふも
 子たを怒り雲事一志むかり就きどもは老知さ
 うち父一むいといさうも詞を返さず能もんはひ
 家内も能はめと屋は同言か一室の家のわふ
 ありふかきと終りてゆれば父ゆれとて焼火をかり
 何ら一むといども老父を大ふ何そおのきあて又老さ



もの^{あつた}なりてハ酒かど飲^のむ事あれどもはを^つを
候^つし^つ候^つは^{せき}席^つか出^つる事か^つり^つる志^つの
者^つ由^つ父母も^つま^つほ^つひ^つ人^つは^つ向^つひ^つる^つは^つ者^つが^つけ^つひ^つの^つ区^つ
し^つは^つ由^つ忍^つふ^つめ^つ初^つの^つ貧^つ窮^つとい^つへ^つも^つ人^つの^つ田^つを^つも^つ耕^つ
し^つ且^つ日^つく^つの^つい^つと^つか^つこ^つを^つう^つげ^つて^つ家^つ内^つを^つ育^つく^つも^つ事^つな^つ
り^つ此^つ娘^つし^つさ^つう^つと^つ渡^つり^つ照^つけ^つ事^つ隠^つさ^つぬ^つれ^つば^つ教^つ宿^つ
令^つし^つて^つ里^つ心^つ及^つび^つと^つか^つし^つさ^つ者^つども^つ呼^つか^つし^つ事^つ
實^つを^つ尋^つね^つば^つは^つ者^つ本^つ比^つ又^つ母^つり^つ孝^つふ^つ弟^つ妹^つを^つも^つ
し^つ其^つ質^つ良^つ実^つあり^つと^つ同^つ郷^つの^つもの^つも^つ和^つ順^つあり^つと^つせ^つふ

稀^つかる^つ者^つあり^つと^つ告^つり^つれ^つば^つや^つが^つと^つ 君^つ聴^つふ^つ建^つし^つ
明^つ和^つ九^つ年^つ辰^つ二^つ月^つ未^つ若^つ干^つを^つ納^つひ^つと^つ貴^つせ^つと^つ家^つ
を^つ濱^つ村^つ九^つ右^つ米^つの^つ妻^つま^つ川^つ 舅^つ姑^つふ^つ事^つへ^つと^つ
す^つぐ^つれ^つと^つ孝^つ行^つの^つ少^つへ^つあり^つ九^つ右^つ米^つの^つう^つぐ^つの^つ田^つ地^つ
を^つ耕^つし^つと^つ家^つ素^つより^つ分^つたり^つ子^つは^つ十^つ七^つ歳^つより^つ二^つ
歳^つま^つど^つ六^つ人^つあり^つあ^つふ^つ家^つ内^つ朝^つ夕^つか^つし^つう^つほ^つし^つと^つ
い^つへ^つと^つま^つ川^つ常^つふ^つ子^つを^つ叱^つり^つ置^つる^つ事^つか^つし^つある^つ
人^つを^つと^つり^つれ^つば^つ苦^つへ^つとい^つふ^つ八^つ九^つ歳^つハ^つ祖^つ父^つ母^つの^つ妹^つ弟^つを^つも^つ



るかも焼る餅がどろろと化かしてはとて能ふのこを
 すむ寐る時ハき夜ハきおもゆつちやねども家内をこ
 るとあ集め買はさむうさぶねはさきせし免寐るあ
 よ必るうううと寝取は入る能あさめと後男
 を卧しむま九左衛門へもよく事へ貧しけれども
 家常不感く泣くころ事一何ふとま川が父やまをま
 とりて高き拾石をうりも持たば民もく九左衛門と
 貧富大なる遠いぬさどもま川親小向いとおのまが家の
 貧しきことをさすは父をまも常小人は語てて家子



おさずあゝそ義氣と貴せうとそ年来救ふと
 給ひる今年七十歳は餘里を篤実少くもれと
 ろろるりかゝる年老ひ子かくして使なさを何れ
 そひ且氣の孝んと稱譽をとり方金貳百疋城下
 婦ふ于時明和九年辰五月廿一日の事かゝり

生跡屋勅と塙文婦

大飯那高演今在家町は生跡屋勅と塙文婦といふ者なり比
 勅と塙文婦を親へ孝人深く衣服飲食をとりめ
 義州人とつゝと親うぶかゝる孝善つひり



かこくへん 此事

政府よきせしむる 安永二年己酉

三月三日若干の米とト一協ひと廢費せしむ

高濱高在場つ女その

大飯郡高濱町の裏町より日傭とすぶひとする

高在場つといへるもの女其の帯より又ふ事へて孝

かすすきとふりふりかれども主なる高屋敷人

とてこれとあらず安人稱せざるに如しける

公願ふきし安永二年己酉三月二日米若干と給ひ

て費せしむ又高濱より侍哥より安へる一二の邑人け



孝子の如く感へし詩は賦一和哥り一詠一為
ふ序跋と化し孝子傳と名付くまゝを抄るの志
是も亦稱すべしされば此一巻もまゝのまゝ
傳へしかしれど事志なきが故よりしるす

忠臣源七

小次郎源七といひて其後物を賣ふ
ものあり又を源七といふ父老より酒を好む
酔へ必氣短くなり故に源七と初家人と云ふ
怒るといへども源七は逆ずして能事源七も

老い短氣も源七をもめしとて家を壊すかの
とハ常ふ二階より居て仏法を伝へ平生の僧と
金と酒を好む事ハかゝるが如きより金と酒をも
かけをすむ父奥肉焼酎とて食はずある金
好むあれども金と酒をいふは常ふんを弄す父源七
酔ひを憐へし失言かどめし時ハ速ふり慢を
いふ怒りをわづねその家より去る過を謝す
ある同郷も是と感ず常ふ家人より去るをいふ
と初妻子の衣食が川原に用ひし物と云ふ

と係^{くわ}つるうづなれども父の事^{こと}は控^{かへ}くハ何^{なん}りもん
は慥^{たしか}ふやふか^いし費用^{ひようぎん}二厭^{いと}ふるうづなといふ^いむある
時^{とき}乃^{すなは}具^ぐを沽^か拂^はふ家^けあり係^{くわ}七^{しち}まあへむりんとバ
老人^{らうじん}のものれ物^{もの}は宜^{よろ}き具^ぐあるをさふ日用^{にちよう}れもの
あゝれども老^{らう}いふ親^{おや}あれば方^{かた}一^{いつ}病^{びやう}季^きの時^{とき}が
どめれ物^{もの}は宜^{よろ}く人^{ひと}と心^{こころ}ひ目^めふるを調^{とと}へしと
かり妹^いお人^{ひと}ありと友^{とも}を厚^{あつ}しとかん又^{また}安^{やす}永^{えい}二
年^{ねん}の比^ひ小^{せう}浜^{はま}所^{ところ}疫^{えき}癘^{れい}を中^{ちゆう}にも分^わるしとあ
家^け内^{うち}くく中^{ちゆう}て生^{せい}計^{けい}もつと給^{かんと}と飢^うふ及^{およ}ぶ老^{らう}る



源七是とありて己が名を原一人をたてて密小末を
負せし波の家より帰るに始終 邦君よをせしうを
志をたてし勢はひ安永二年己二月米荒平を始
又其後の事ある時あるべしと今せし像

小間物屋名を云

大飯町に濱赤尾町小間物屋長と名付たり其の父屋
居しと名をとり常小に信ふ其或い家方より入る
輕き者たを急せり安永二年の比濱浦町と
いふ漢家疫癘なりと云ふとが事ありし頃飢

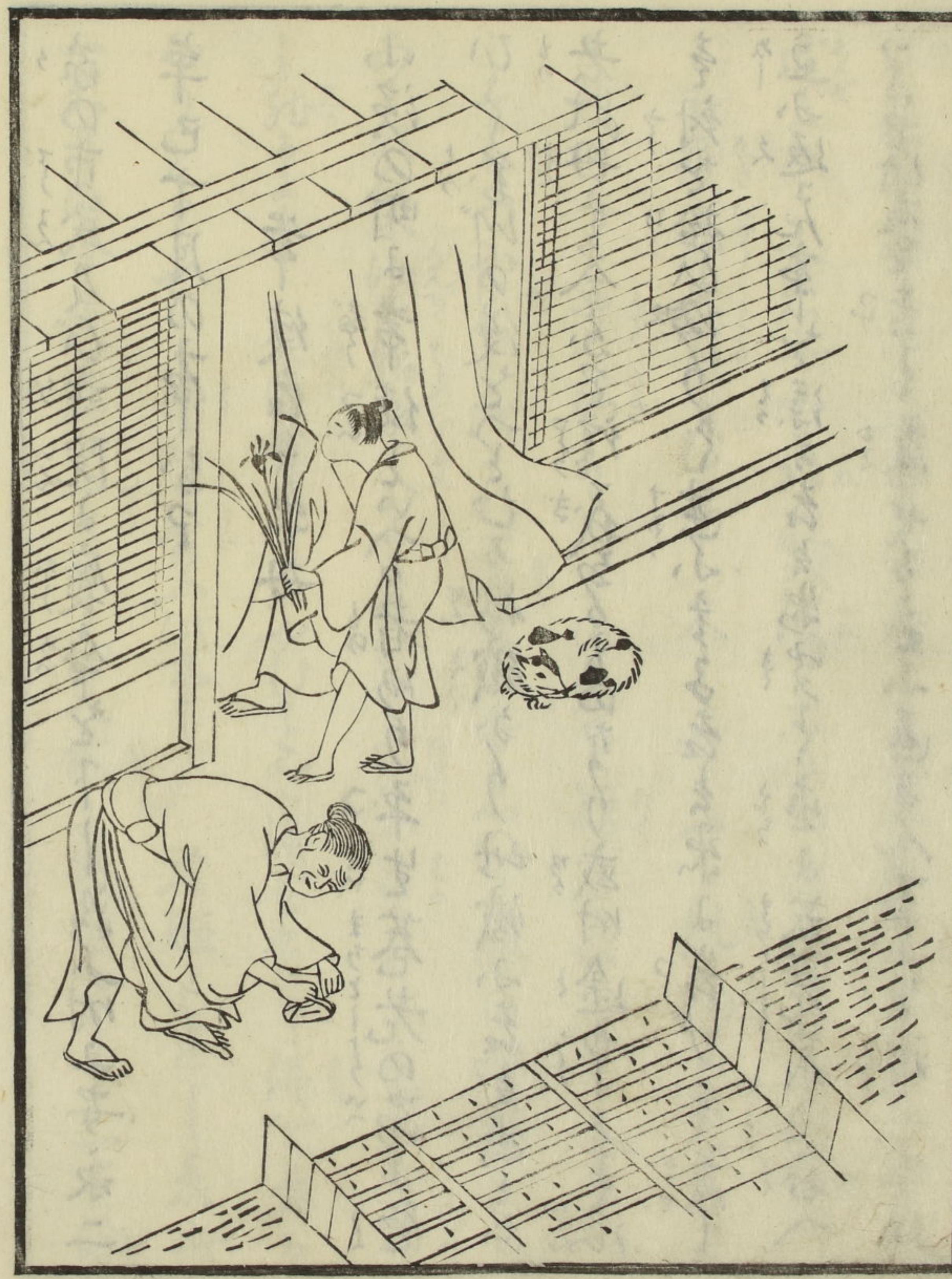
及ぶんとするもの多し濱町の者たの内二十餘家
その他寺院救寺を恤せし米穀をたしと名を
救ふ事あるに及ぶ米穀多少あり若くも亦救の
米をよめる事三度且炭薪の類ひをたす事若
干ありされとも漢家多くしと其のすくひるに難
きと云ふに安永二年或は濱浦町刀祢漢家の九石を
といふも戸を叩くものありあると起出るる
ちよみよりいへる浦町の掃師疫病は若くも
よ白米式儀をたすれり然くハ病家の中にも困苦なる

今朝巷宰事よけ事と云々来えよりあると云々
 退きと云々父系を云々波が云々云々云々此は捕師
 とも疫病よ若しむ事久し中おも飢渴よ免さざ
 る者ありと云々前よづうの本を源りといへども人多く
 してかつおほく云々波が云々と云々他の憐れさ
 あづなおはと始人人もあびと密お斗り事め切
 し然る今 公の命おきばむしとを得る有し候と云々
 ありとせしゆと云々云々事 君融よまじし云々
 お美年の命を云々云々又前よ救を云々二十餘

家の市民及び寺院の衆令を下し給ふ時お安永二
 年巳十月の事なり

常使名を求母

小濱の町は常使といへる者あり平生巷老のあまを
 いふ美川の使をとむる御職あり此職ふを云々云々
 若れ母も人か云々津義あるものなり或時途中よく浪
 を封と拾ひゆりて事ふも子云々来よ告げ云々云々
 之お返さん事を云々云々云々云々巷老某の宅へ
 いさけを告ぐ云々云々云々云々云々云々云々



落せー主知とくつひふそ眼を還ーぬ市令母これ
 貪財うそ志の廉かるを称ーく 政府よ建を
 有は残を以て是を褒賞せしふ于時安永三年午八
 月の事なり

竹波村新五郎

三方弘竹波村に新五郎はま村の里番あり平生美事
 あり人の難をえん捨るものあり安永三年午の春
 大災ありく邑中悉く焼七を新五郎おのきか宅もた
 り焼市幸ふくく廩むり米を沙るるは邑中此窮困



とらんるは君びず毫も顧みずる事かくおのれが財へまける
 米五十俵を運ぶ出でて邑中の人を救ひしうむ
 中こそがなりし危き名の飢を免る事
 邦君よまをせしうばを我と感ぜし徳ありし
 月より麻と下並に方金千疋を下し賜ふ是安永
 三年十二月の事なり

五十石村 忠たぬの 助く恵 四郎と米
 を安下中那五十石村安永年冬矢大ありて延焼
 の老より邑長忠たぬの百姓助く恵四郎と米といへる

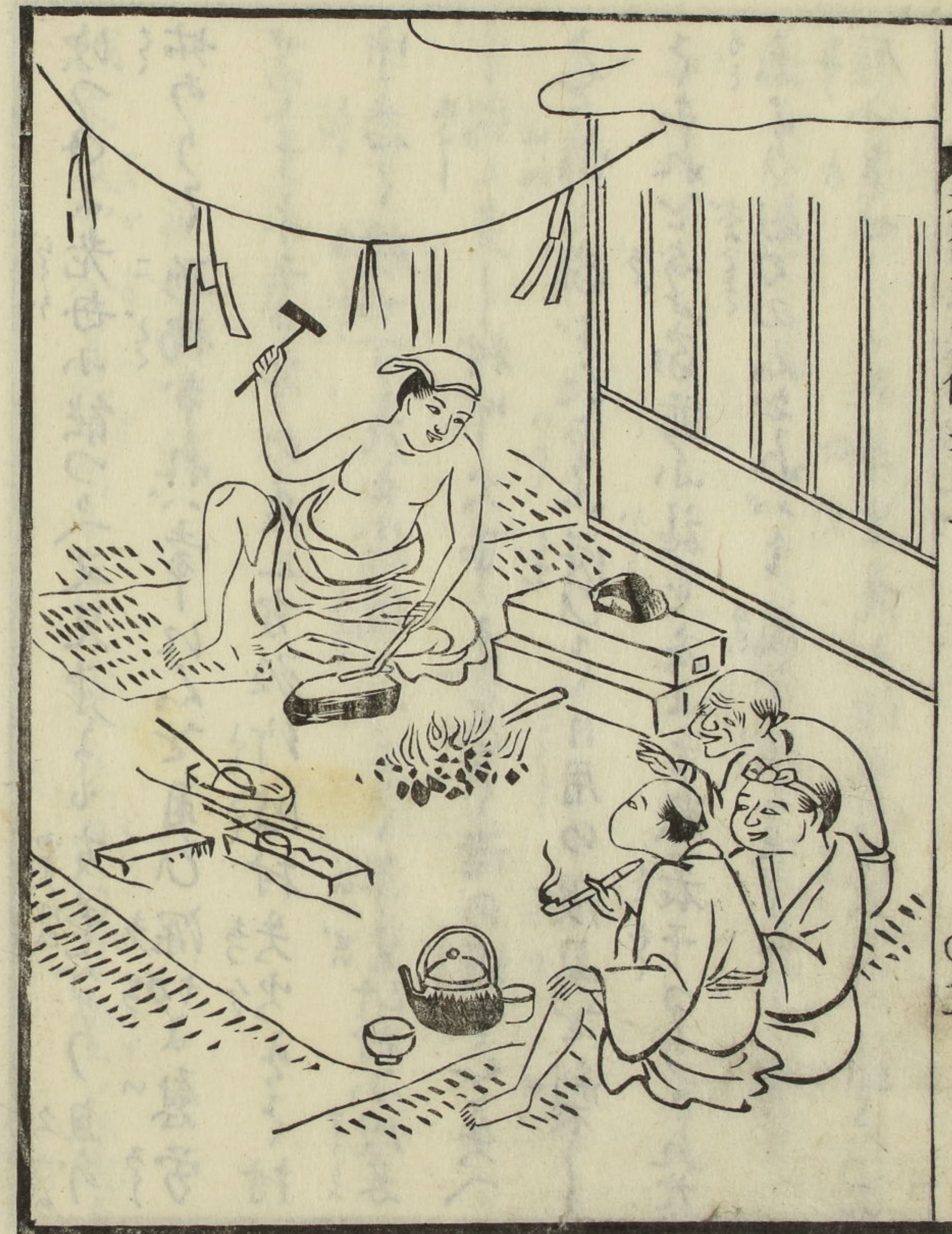


三人患難をいそぐ深く痛におのどくが貯へる米穀及び甚且農家のうちから機桶かといへるお米子と家毎に送りくも急を救ふけ村の多りいふくを御しをいふ一三民のいへるおかりふかりる義氣の輩ありといと頼も一三事あり那の司事と政府は若く周く安永四年未二月茂美子とぬいそのころざを賞せしふ

浪治産金場

紙前敦加金が通り町は産金場といふ老あり治工を職と

次子よ老母不能つゝ又兄弟も友もかり且お姑ありと孤獨かれは常に人をいひ深切に慰勞せりまよ上る年の暮三方那竹波村失火を村中悉く焼亡す産金場職ふつと平生け村小波来一親に多し村中火事おをいし諸の道々を失へるを憐れおどいふ涙ひと日用の鉄具を製しとむれとあふ家並ふ施をなよま救若干ありされた素より助力の人おれはま價を清る事ありけり願ふをせしむる平生産金場が真涼あるうけしひの



志を感賞しぬひ安永四年未六月米穀石を頒ふ

敦加多港

安永四年未八月六日の夜越前敦加多唐人橋町といへる
 所より火を起し延焼の家多くあつた窮乏なれを憐れ
 け災を苦しむもの少く然れども敦加多街中け豪家
 或はん所ある者をゆるは悲しむも金銭及び竹木縄蒔
 釘或は日用の水釜の類ひ若しとてひくよあゝとふ
 或はんとりく救ひを出すもあつた又同街おそれて
 解るも有り又姓名をかくして密に投ずるも有り

つひに港中へ沙汰をさし、或る日此松前の船位或は加
川の船位等の中にも、折節より来り合ひて、感
激をいえず救ひをなす者も、何れも此角麻の港へ従来
をなすむの風俗、此御に接する事、誠は称するなり
堪へり貧窮患難を親戚のお救ふす奇特
の事、かゝる隣保お助けをなさるる事、いふべ
き、國境の事、あらずや、けしき、洋の君、融
よきをせしむ、深く志を感じ、茲に同年十一
月廿日、厚く慶令を下し、賜ふ事、救をかせし、姓名

又、此松前の所、くの負、使さんも、遠恨かれ、有司
れ政府よきをせしむ、をたし、記し、留ぬ

安永四乙未年八月六日、飯町内出火三付

町中より合力の覺

川向唐人橋町

一、延六拾三米、但、米、八、拾、三、米

清例屋、六、拾、三、米

一、松板六拾三米、但、六、拾、三、米

何、米



一 鉢拾貳貫六百文

能光屋 九云湯

一金拾文

町老岩田市三郎右衛門方
投入多々何人不知

一金五文

何人とも不知肝葉
又九雲方投入多々

一金拾五文三步

綱屋傳玄緒
使氏代店玄米

一 鉢六貫二百文
枚六拾三文

湯寺町 白湯仁右衛門

一 錢三拾貫文

松町

一 繩六百六拾把

甲子城 長三郎

一 水壺六拾口

山下三四郎

一 茶碗百九拾貳
箸貳百九拾膳

船屋源次郎

一 錢拾貫文

松前新七
能屋新七
能屋源次郎

館屋新七級元來當取之者而治之諸門同家之者三處
才上ふ如名を成けえ居屋敷を仕包松前以棒に糸以処彼
方家と持只今より八松前之住人にお成先比が松城居り

一 枝木六指三本

從之丈四寸角

館屋治之諸門客分

け客と有く志加洲沖松取と人と宿治之諸門

三人として枝木とね柄を以

一 錢貳拾貳貫文

細物屋 長九諸門

一 錢貳拾貳貫文

寺屋敷 町中

一 金貳枚

員徳屋 力三郎

一 錢貳拾貳貫文

濱崎寺町

一 金拾枚

沢屋治之諸門
其の桑屋助也

一 錢貳拾貳貫文

流下過子町

一 竹貳束
繩貳拾六把

川内西過子 六右衛門之次

一 浅式拾七貫文

東濱町

一 金三匁

水江後庄町

一 浅式拾五貫文

西濱町

一 浅式拾五貫文

當町
川より表町

一 浅式拾貫文

西町中

一 金壹匁五匁

何来

一 金五匁

五匁
沢屋右左衛門

一 浅式拾貫文

茶町

一 浅式拾貫文

丁持町

一 金六匁三匁

建屋長左衛門

一 涉式貫五百文

多居过子町

一 錢五貫三百六拾文

六新町

一 涉拾三貫文

新町

一 松松式拾米

能光屋 久助

一 涉七貫文

上瀧寺町

一 錢拾貫文

唐人橋町

一 錢拾八貫文

東河

一 錢三貫文

出村町

一 涉拾五貫八百六拾文

川向
河内过子町

一 涉三拾貫文

金ヶ过子町

一 涉指六貫文

親世屋町

一 涉三貫文

法親堂前町

一金走步

一向堂町

涉ノ四百三指計貫九百廿六文

金ノ五指計走步

八月廿日

惣ノ金百三指三走之歩と

新金貫文余

新焼人

六指三人之割

走人前金計走と新六百文半

外

一 沙三貫六百文

庄町中

一 銭五貫八百文

紙屋町中

一 釘六拾三把 但次三寸

角榎七玄場

一 祿拾八貫文

中の稲町

一 祿三貫八百文

堀場町

一 沙三貫文

三日市町

右に八返り^{たす}の^{すゝ}の^の救を^の一分也

若州良民傳卷之三

一 卷一百一十五

一 卷一百一十五

一 卷一百一十五

紙泥町

一 卷一百一十五

紙泥町

一 卷一百一十五

一 卷一百一十五

紙泥町

